

会議の概要

会議名	第1回宝塚市民文化芸術振興会議
開催日時	令和6年11月8日(金) 18:30~20:15
開催場所	宝塚市役所 4階 研修室
出席委員	(出席) 藤井委員 谷口委員 梅田委員 柳樂委員 越知委員 田中委員 小島委員 三戸委員
公開の可否	可
傍聴者	なし
議題及び結果の概要	<p>1 開会 会議の成立 (宝塚市民文化芸術振興会議規則第5条第2項の規定により成立)</p> <p>産業文化部長挨拶</p> <p>10月5日に「OPEN!みんなで話そう!やまさき市長とともに」を開催し、13名の参加者と文化振興について意見交換を行った。宝塚歌劇に関することや子どもの作品発表の場を増やすこと、文化芸術による社会貢献、文化芸術センターに関する事など、様々なご意見をいただいた。後日、市ホームページに議事概要を掲載するため、どうぞご覧ください。</p> <p>本日は、委員の皆様より忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>2 議題 本会議は原則公開であるが、今回傍聴希望者はなし。</p> <p>(1) 文化芸術振興施策の方向性と事業取組の状況について 事務局：【資料1】に添って説明。</p> <p>会長：令和5年度の実績、課題・評価、6年度の計画について説明があった。事業が進展していることが見受けられる。</p> <p>委員：文化芸術振興基本計画では7つの方向性を設定し、とても良い計画ができたと考えているが、現状は、既存事業をこの方向性に当てはめている。そうではなく、「各方向性を実現するために〇〇をする」という考え方をした方が、宝塚の将来都市像の実現に繋るのではないかと。</p> <p>事務局：本市では数多くの文化事業を行っており、既存事業を7つの方向性に当て込んでいることは否めない。文化政策課の職員は計画の内容を理解しており、他分野との連携などを意識しているが、庁内全体や関係団体には十分に周知できていない。庁内会議を開くなどして周知を図り、事業を広げていけるよう進めていきたい。</p>

会長：我々は、アートを通じて市民や社会が繋がるようなことを目指しており、一歩ずつ進んでいるとは思う。

委員：今年7月の「文化芸術によるまちづくり講演会」では、講師の方から「宝塚市独自の“これ”というものを1本作りなさい」「市民に喜んでもらえるものを」という指摘があった。市として“これ”をどこに決めるのか。また、文化芸術センターを今後どのように活用していきたいのか。

事務局：施設についてはギャラリーとは名乗っているものの美術館には及ばず、作家の皆様には今ある設備の中で展示を行っていただいている。また企画展について、高いレベルの展覧会を行うのか、誰もが楽しめる企画を行うのか、どちらを行うかは来年4月から指定管理者が代わる今、岐路に立っている。また館内の案内をもう少し落ち着いた雰囲気にしてはとご意見いただいた。

いただいたご意見を踏まえて、指定管理者の方で検討いただいているところであり、市としても収益的な安定性等も踏まえながら一緒に考えていきたい。

また現在、文化芸術センターの愛称募集を行っており、応募された内容から、センターが求められているものが見えてくることを期待している。

委員：前回の振興会議で、事業を振り返ってその効果を考えることが大事という意見が出ていた。文化芸術センターでは子どもが作品を鑑賞する機会を設けているが、実際に見せてみてどうだったかを振り返り、今度は違う作品を見せてみようとか、対象年齢を考えなおしてみようとか、工夫を重ねることでより効果的な取組になっていく。県立美術館に出張公演に来てもらうこともできるだろう。また大人向けの鑑賞会も良いと思う。

会長：兵庫県立美術館は色々な大学と包括連携協定を結んでおり、入館料無料や割引となっている。大学生と一緒に新しいプロジェクトを作って子どもたちを招いたりしている。宝塚でも、大学の知見や学生の力を取り入れると、子ども達とアートを繋ぐアイデアが出てくると思う。

委員：文化芸術センターの企画展について、当初からプログラムが変わっておらず、また宝塚でなくてもできるような内容になっている。子ども向けの取組が進んでおらず、児童館でも出来るようなワークショップになっている。今後新たに企画するときには、年間のテーマを決めてシリーズ化するなど、「こんな子どもを育みたい」と分かるような設定をすると、楽しみにしてもらえし、まちの文化芸術の底上げになるのではないかと。

また、「評価と課題」の項目が追加されたが、文字で記載するだけでなく、この点をメインにこの場で議論し、次に繋げていく必要がある。

事務局：ワークショップにはそこそこの人数に来ていただいている。この振興会議をもう少し早い時期に設定し、関係部署と調整して、翌年度の事業に反映できるよう、会議日程を見直したい。

委員：課題に商業施設との連携が進まないとあるが、どのような解決方法があるのかを話し合い、それを指定管理者に伝えて反映して欲しい。

会長：文化芸術センターの愛称募集についても、審査員に商店主にも入っていただくなど連携が可能だが、市に提案した時には審査員は既に決まっていた。意見を反映できるようなスケジュールで進められると良い。

委員：愛称募集のチラシだが、あまり応募したいと思えるデザインではない。学生などにデザインしてもらうこともできる。

委員：計画の7つの方向性について、財団のビジョンにも市の計画を反映しており、アウトリーチの実施にあたり社会包摂を意識して企画するなど改善に向けて検討している。ワークショップは子どもたちが文化芸術を体験できるような仕掛けを作っていきたいし、テーマも意識していきたい。

コロナ前よりあおぞら劇場で行っていた「かえっこバザール」を本年9月に実施したが、以前参加していた子どもが小学生になり、今度は運営を手伝ってくれる事例があった。続けることで人と人の繋がりが生まれていくと思う。

現在、宝塚ゆかりのデザイナー、中村佑介さんのスタンプラリーを行っており、周辺店舗からは売上に繋がったと聞こえてきている。

施設の改修について、各施設老朽化しており改修は必要であるが、休館を余儀なくされ主催事業や市民団体の事業に影響が出るため、計画的に行う必要がある。

(2) 第2次宝塚市文化芸術振興基本計画に定める指標の達成状況について

事務局：【資料2】に添って説明。

委員：令和7年度目標に対して、令和6年度実績を事務局はどう評価しているか。

事務局：他分野と連携した取組の数について、目標100事業の達成は厳しいと考えている。

市民ボランティア登録者数も目標300人の達成は厳しい。昨今、労働人口が高齢化しているため、市民活動の担い手の世代交代が行われていない。市民活動の魅力を分かってもらい、参加してもらう工夫が必要である。

市HPの文化芸術関連ページのアクセス数が減少していたが、コロナが落ち着いてイベントが再開できたこと、文化芸術センターのイベントの数が増え

たこと等により令和 6 年度は増加した。

委員：市民ボランティアの募集はどのようにしているか。

事務局：Face to Face は独立した団体として活動されており、文化財団の事業の受付等を行っている。博士の会は「宝塚学検定」に紐づく形で運営されている。施設を拠点に活動しているのは文化芸術センターの市民ボランティアだけになるが、シニア層だけでは十分な人数が集まらない今、若い方にも呼び掛けていく必要があると考えている。

委員：市民ボランティアの令和 7 年度目標 300 人はどのように決めたのか。

事務局：計画を策定した令和元年度は約 100 人登録されており、令和 2 年度に文化芸術センターが開館し市民サポーターを募れば 200 人程度は集まると見込んでいた。

委員：昨今ボランティアが集まりにくい状況になっている。これまではボランティアと言えば完全に無償であったが、交通費だけでも出るとモチベーションが上がり集まりやすくなる。

事務局：市のまちづくり協議会等でも、最低限の道具を行政で用意して欲しい、全て無料で奉仕するのは今の時代に合っていないというご意見をいただいている。

委員：市民サポーターの具体的な活動内容は。

事務局：庭園管理のお手伝いやライブラリーの整理、SNS での情報発信を行っていただいている。

委員：年配の方だけでなく子育て中の世代でも、絵本の読み聞かせのボランティアをしている人が多い。活動内容を具体的に絞って募集した方が応募しやすい。

委員：お勧めの本を紹介してくれるコンシェルジュのような人がいると、子ども連れの方が心強いのでは。

委員：お子さんが読み終わった絵本の「かえっこバザール」も良いのでは。

会長：学生も交通費を貰えると参加しやすい。

(3) 令和 6 年度主な新規事業（市制 70 周年記念事業）の取り組み報告

事務局：【資料3】に添って説明。

会長：豊岡演劇祭の養護学校出張公演は打合せの段階から決まっていたのか。

事務局：子どもの鑑賞機会を増やしたいと実行委員会にお伝えし、出張公演も含めて実施をお願いした。教育委員会に出張公演1校を打診したところ養護学校に決まった。身体障害のある子など公演会場に足を運びにくい子もいるので、意義のある実施となった。

会長：市民の文化芸術を体験したいというニーズがあるからたくさん来場される。

委員：演劇祭を宝塚が自主的に開催することは出来ないのか。宝塚には文化芸術の資源があり、資源を活用して自主財源を稼げる方法を考えていく必要がある。市としてこれで稼いでいくというストーリーを作り、議会や市役所内部で議論してほしい。

事務局：平田オリザ氏の発信力や、県が豊岡に芸術文化観光専門職大学を置いたことが大きいと思うし、宝塚での豊岡演劇祭でもスタッフとして従事していた。現地では学生も出店したりパフォーマンスしていた。

委員：どうやったら大学を誘致できるか、それも戦略が必要である。

委員：河川敷の「山月記」は大人向けとのことだが、子どもも静かに見ている、大人・子どもで分ける必要のないイベントだと思った。このイベントは、武庫川と大劇場前の階段と宝塚のまち並みがあり、宝塚でしかできないイベントだった。無料だったが投げ銭方式で、多くのお金が投げ込まれており、顧客満足度の高い事業だったことを示している。これからもあの場所で色々な事業を仕掛けられる。

委員：文化芸術センターのおおやね広場の階段や、文化創造館前の公園の階段も同じように使えると思う。

会長：取組の方向性を定めて、それに沿って進めていくことで骨組みが形づくられていく。

委員：宝塚の色々な事業に参加して、市役所パーパークラフトやオープンガーデンフェスタ、コーヒーフェスタ、ランタンフェスティバルなど、“はなまる”を付けたい事業があった。取組一覧ではオープンガーデンフェスタの参加ガーデンが増えないことが課題と書かれているが、各家庭でささやかなお

もてなしをしていただき、既存の場所だけでもとても癒される事業だった。文化芸術センターでの建築家・宮本佳明氏の展覧会は、子どもたちも喜んでおり良い展覧会だと思っていたら文部科学大臣賞を受賞されていた。

愛称募集の賞品として、QUOカード1万円は安すぎる。

文化芸術センターのガーデンハウスにカフェがあると良い。他市では庭園を見ながら犬を連れてお茶できるテラスがあり行列ができていた。

委員：源氏物語の絵巻展を見せていただいた。本物の絵巻を見ることができとても良かったが、専門的な視線が欠けている感じがした。源氏物語は京都のイメージを持たれているが、須磨や明石も出てくるので、宝塚に近い地域も描かれていることを紹介できるとより身近に感じていただけるといい。展示パネルの内容はとても良く書かれていた。

会長：大学の専門の先生とも連携できると良い。

(4) その他

事務局：11月1日から文化芸術センターの愛称募集を行っており現在90件、小学3年生から84歳まで幅広い方に応募いただいている。

委員：愛称をどのように活用していきたいのかが見えない。既存のロゴマークがあり、キャラクターのようなデザインになっているが、愛称とどう組み合わせるのか。

事務局：ロゴマークは文化芸術センターの建物のマークとして商標登録しており、今回募集している愛称は、建物と庭園全体を表すものを募集している。具体的な活用方法は今後、指定管理者に検討いただく。

委員：県立美術館で「芸術の館」という愛称があり、当初は頻繁に使われていたが、次第に使われなくなった。

委員：ネーミングライツを売り出しても良かった。

事務局：庁内や議会から市民に親しんでいただくために愛称募集をという声が強かったため、愛称募集を行うこととなった。

4 閉会

事務局：本日はありがとうございました。いただいたご意見を踏まえて、庁内関係部署や市内文化団体と連携して事業を進めていきたい。改めて、事業を振り返ることや庁内の各部署と連携することで事業がより良くなっていくと感じた。また、いただいた意見を指定管理者に伝えていく。

	<p>現在の委員の皆様にお集まりいただくのは今回が最後になりますが、今後も様々な形で文化芸術の振興にご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。</p>
--	---